第 37 回九州支部独奏コンクールの審査方法と結果について　　高橋　和彦

昨年の九州の独奏コンクールの結果が、マンドリン、マンドラ各部門ともに 1 位なしの 2 位だったという結果から、ごく一部の方からですが「独奏コンクールとアンサンブルフェスティバルのソロ部門との差はナニ？ 違いが無いのでは？」みたいなクレームがありました。

たしかにコンクールとフェスティバルは別物なので、今回からコンクールの審査方法を見直す事にしました。

今までは 2～3 名の審査員の話し合いで相対的に順位を決めていました。過去の優勝者と同等の演奏内容だったら 1 位みたいな。
そこで、今年から出場者の演奏に点数を付けるようにして絶対的な順位をつけるようにしました。
ひとりあたり 25 点満点で、合計点数が多い順番に順位を決めます。25 点の内訳は審査員にまかせます。
例えば私の場合、以下のような項目で採点しています。
技術(10 点)、音楽性(10 点)、マナー(演奏姿勢、演奏態度等)(5 点)といった割合で採点します。

また、25 点満点の目安としては
23～25 点：かなり上手い(1 位相当)
19～22 点：まあまあ上手い(2 位相当)
15～18 点：上手い(3 位相当)

これを審査員が 2 名の場合、単純に 2 倍すると総得点(50 点満点)では以下のようになります。
46～50 点：1 位相当
38～45 点：2 位相当
30～37 点：3 位相当
29 点以下:選外(努力賞)

これに従うと、例えば最高得点者の合計得点が 46 点以上だったら 1 位ですが、45 点だったら 1 位なしの 2 位という具合です。

今回、マンドリン部門は
平川拓さん(高橋 17＋福屋 19＝計 36 点)が 3 位(1,2 位なし)。
マンドロンチェロ部門は
北島温子さん(高橋 21＋福屋 21＝計 42 点)が 2 位(1 位なし)という結果になりました。

来年は皆が安心して参加出来る、楽しいイベントになることを切に祈ります。